

令和8年度 学校教育計画

教育理念	－ 真理の探究 － 自他の敬愛 － 責任の完遂		
学校教育目標	1 現代社会におけるグローバル化・情報化の進展や産業技術の発展をふまえるとともに、生涯にわたる人間形成の基礎を培い、多様な科目を開設して生徒の個性を伸長させる。 2 将来の職業選択を視野に入れた進路設計への自覚を深めさせ、社会の変化に主体的に対応できる心身ともに健康な人材を育成する。 3 マンツーマン指導を基本として、個々の生徒の興味・関心・能力・適性及び進路等にきめ細かく対応し、それぞれの希望する進路実現を支援する。		
中期目標	(1) ライフプランを考え、進路実現させ得る組織的な学校づくり (2) 体系化されたキャリア教育のシステムによる「生きる力」を育成する学校づくり (3) 授業等の様々な学習活動を通じて、健康な心身と体力を育成する学校づくり (4) 地域社会と連携し信頼される、開かれた学校づくり (5) 知識の確実な定着と実践的思考力を養う、魅力ある授業の研究 (6) 特色ある系列と進路実現に有効な科目選択の研究	総合評価	
今年度の重点目標	① ICTの活用推進をはじめ生徒のワクワク感を引き出す授業改善と伴走支援による生徒の主体性の醸成 ② 学校と社会をつなぐキャリア教育（産社、CP、CD）のさらなる推進と探究学習（シオジリ学、総研）のさらなる充実 ③ 総合学科の最大の特色である生徒の多様な学習ニーズに応える科目選択実現のための方法やサポーターズシステムの見直し ④ 会議時間短縮のための情報ツールの有効活用と職員間の対話の奨励、働き方改革に係る業務負担の平準化と時間外勤務の縮減 ⑤ いじめや非違行為のない安心・安全で生徒がいきいきと活動できる環境の確保と指導力向上に向けた自己研鑽の奨励		

部署別重点目標

部署	今年度重点活動(評価項目)	重点目標	到達目標(評価の観点)	評価	成果と課題	改善策
教務	1 志学生が安心して学校生活を送り、確かな学力と豊かな人間性を育めるよう他部署との連携を図り、円滑な学校運営を行う。	①②③⑤	ア 月暦・日課等の作成と周知徹底、状況に応じた日程変更と連絡の徹底 イ 授業研究・授業公開の実施、サポート、情報発信 ウ 教員の各種研修の推進、サポート			
	2 ICTを使用した授業改善、生徒の主体性を育む教育内容の充実を図り、その成果を積極的に保護者、地域、中学生に発信し、地域に理解され信頼される学校作りを目指す。	①②③⑤	エ 中学生への出前授業・進路講話の内容を修正し、本校の魅力を更に普及させる。 オ 体験入学・学校説明会の内容を見直し、中学生が体験できる機会を多くする。 カ 授業公開・体験入学・学校説明会・中学校訪問の早期連絡案内			
	3 PTA、地域と連携した諸活動を通じ、学校・家庭・地域社会を繋ぎ、生徒が安心して活動し、豊かな経験を積める環境を整える。	②③⑤	キ 学校・学年・学級のPTAを通じて、学校と家庭における教育の情報を共有し豊かな学びの機会の充実 ク PTA会報などの内容と広報の充実拡大			
	4 必要な情報を最善の情報ツールを使用して周知し、会議や勤務時間を削減し自己研鑽の時間を増やすように努める。	①④⑤	ケ 職員会議の議題の選別と完全なペーパーレス化で、時間と労力を削減する。 コ 提出書類の期限、書式の周知徹底。 サ 時間遵守の呼びかけ。			
	5 いじめや体罰のない生徒一人一人が安心して取り組める活気のある教育の環境を整える。	①⑤	シ 生徒を取り巻く様々な状況の変化に臨機応変に対応できる態勢を整える。 ス 生徒の活動や授業の様子を#Shigakuやホームページに掲載し発信する。			
進路指導	1 各部署とのつながりを意識し、体系的・組織的に進路指導を行う体制を整えるとともに、職員間での情報共有を図る。	①③④	ア 生徒の進路に対する意識の向上と、基礎学力の定着を図るため、各部署と連携してより効果的な取り組みを研究、実践する。 イ スタディーサポートや模擬試験など学びの基礎診断ツールの効果的な活用を研究、実践する。 ウ 3年間を通じた進路指導の指針となるべく「進路の手引き」を作成する。			
	2 自らの目標と進路の実現に向けて、主体的に行動できる生徒の育成を図る。様々な検定試験の受検を奨励する。	①②	エ 桔梗塾などの補習授業や放課後の自主学習、各種検定に意欲的に取り組むよう促す。 オ 進路ガイダンス、進路相談会、オープンキャンパス、企業見学会への積極的参加を促す。 カ 「進路通信」「志学の時間」を通して、進路に関する情報を提供するとともに進路意識の啓発に努める。 キ 一人ひとりの生徒の状況に応じた進路が実現できるよう支援する。			

部署別重点目標

部署	今年度重点活動(評価項目)	重点目標	到達目標(評価の観点)	評価	成果と課題	改善策
生徒支援	1 「対話と共感」、「自立と支援」の生徒指導 ①基本的な生活習慣の確立 ②服装・頭髪等の身だしなみを整える ③貴重品の管理、携帯・スマホ利用に関する注意喚起 ④交通事故の未然防止	②③⑤	ア 職員の共通理解と意識を統一し、生徒への声かけを大事にする。 イ 学習、行事、生徒会、クラブ活動を通して、学校生活の積極的な意義を見出すよう指導援助する。 ウ 交通安全指導を折りにふれて行ない、生命を尊重し安全を確認して行動する習慣を確立させる。			
	2 いじめを出さない学校づくり ①いじめに対する未然防止、早期発見、早期対応、再発防止を組織的に取り組む ②常に開かれた相談態勢を整える	④⑤	エ 家庭との連絡や相談、スクールカウンセラー等の有効活用などで生徒や保護者を支援する。 オ HR担任、教科担任、生徒会、クラブ顧問との連絡を密にし、生徒個々の動向を明確に把握できるようにする。			
キャリア教育推進	1 総合学科である本校の特色とこだわりを整理し、社会の変化に対応した学科運営を推進する。	①②③⑤	ア 科目選択について、生徒一人一人が自己の価値観や可能性を広げられる機会となるよう学校全体で共通認識を持ち、実践することができたか。 イ 生徒が自分の将来について考え、主体的に社会と関わろうとする姿勢を養う機会を設け、実践することができたか。			
	2 キャリア教育に係わる「探究的な学び」が、3年間を通して体系的・発展的なものとなり、職員が共通認識を持って指導できるように整理する。	①②③④	ウ 探究的な学びを通して自己や他者への理解を深めるとともに、自ら課題を解決しようとする姿勢を養うことができたか。 エ 各学年の学習計画が「共通探究テーマ」を軸にした接続性・発展性あるものとし、職員と連携しながら生徒の学びをサポートできたか。			
	3 地域との連携を深め、総合学科高校としての本校の魅力を高める。	①②③④	オ 科目選択とシオジリ学を基礎として3年間発展的に学習できるプログラムとし、地域資源や探究教材を活用し、探究的な学習を実践できたか。 カ 生徒の活動や学習の成果を広く効果的に発信することができたか。			
生徒会	1 生徒会活動に参加することにより、豊かな人間性を育て、相互理解を深める。	①②④	ア 生徒会活動を通じ、生徒相互の関わりを深め、コミュニケーション能力の向上を図る。 イ 目標の達成を目指し、継続的な努力をする事で、高校生活に対する達成感を持たせる。			
	2 生徒自らが自覚と責任を持って活動することにより、主体性をはぐくむ。	①②④	ウ 明確な目的を持たせ、立案、企画運営を行わせる事で、リーダーとしての資質を向上させる。 エ 生徒会活動を通じ、ひとりひとりの役割を理解することで、互いに協力する関係をつくる。			
ICT図書視聴覚	1 ICTを活用して学校教育の充実を進める。	①②③⑤	ア ICTを効果的に使い、生徒の主体的・協働的な学びを促す。 イ 探究活動等におけるICTを活用した指導を推進する。 ウ ロイロノートやGoogle Classroomの多岐にわたる活用を進める。			
	2 ICT環境を整えて校務における活用を促進する。	①④⑤	エ 学校ウェブサイトやSNSを通して学校の情報を発信する。 オ 統合型校務支援システムを活用して業務の効率化を図る。			
	3 図書館運営の充実を図る。	①②③⑤	カ 図書館利用の活性化を図る。 キ 生徒の読書活動の向上を図る。 ク 図書委員会による積極的な広報活動を行う。 ケ 生徒の探究活動に沿った蔵書の拡充を図る。			
	4 視聴覚教育の充実を図る。	①②③⑤	コ 視聴覚教室・視聴覚機材の教育活動への利用拡大を図る。 サ 芸術鑑賞の円滑な運営を行う。 シ 芸術鑑賞を通して、豊かな心を涵養する。			

部署別重点目標

部署	今年度重点活動(評価項目)	重点目標	到達目標(評価の観点)	評価	成果と課題	改善策
保健厚生	1 校舎の日常的な清掃の徹底と、より積極的な美化活動、学校生活環境の改善	①②⑤	ア ゴミの分別と減量化・生徒の取り組みの強化 イ 気持ち良い落ち着いた学習環境の提供			
	2 検診のスムーズな運営と保健教育(講和)のさらなる充実	②④	ウ 保健委員会と職員の協力体制をより強化する。 エ 外部講師の活用および教育方法の研究をする。			
	3 職員厚生の実	④	オ ストレスの軽減とリフレッシュ行事の推進			
1学年	1 基本的な生活習慣の確立	①②③	ア 規律ある学校生活を送るために、清掃、あいさつ、時間を守ることが徹底できたか。 イ 保護者と密に連携することができたか。			
	2 自己理解を深め、他者を理解・尊重する	①②⑤	ウ 自己理解を深め、他者を理解・尊重しようという態度を育てることができたか。 エ 上記ウができるようなきっかけを提供することができたか。			
	3 基本的な学習態度の確立	①③④	オ 授業に向かう姿勢が徹底しているかどうか。 カ 自己の進路に向けて、考えられるような働きかけができたか。			
2学年	1 自己/他者理解の促進	①②⑤	ア 自己や他者への理解を深めるための取り組みができたか。 イ 互いに尊重し合う関係を育むための取り組みができたか。			
	2 研修旅行の充実	①②	ウ 沖縄の地理・文化・歴史についての学習機会を設けることができたか。 エ 国際関係・国際平和についての学習を深めることができたか。			
	3 進路意識の醸成	①②③	オ 3年次科目選択・総合研究を充実させるために、キャリア教育推進部・進路指導部と連携したホームルーム運営ができたか。 カ 生徒の志向を理解した上での適切な指導・助言ができたか。 キ 進路指導を進めるにあたって、保護者と連携をとることができたか。			
3学年	1 進路実現への指導、支援体制の充実	①②③	ア 学習意欲の向上、資格取得へのアプローチを図れたか。 イ 生徒の進路実現に向けて、マンツーマン対応し、支援することができたか。 ウ 多様な入試制度に対応し、受験準備など計画的に活動できるように支援できたか。			
	2 コミュニケーション能力の向上	②③⑤	エ 互いに尊重しあえる関係が築けるようにアドバイスできたか。 オ 保護者との連絡を密にとれたか。 カ 社会の一員となるためのコミュニケーション能力を育成できたか。			
	3 学校生活の充実と最上級生としての活動支援	①②③⑤	キ 学校・生徒会行事において責任ある活動ができるように支援できたか。 ク 規範意識を向上させ、社会や地域に貢献しようとする意識付けをすることができたか。			